

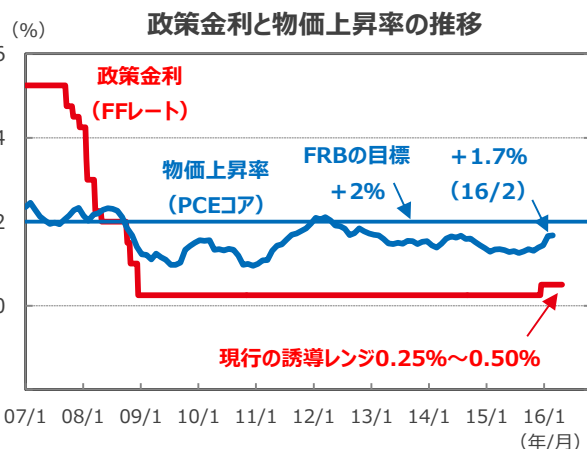
今日のトピック 米国の金融政策（2016年4月）

利上げペースが緩やかなものになることを再確認

ポイント1 政策金利を据え置き

景気は緩やかな拡大、物価は安定

- 4月27日の米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.25%～0.50%で据え置くことを決定しました。
- 声明文では、家計の支出の伸びは緩やかなものとなり、景気拡大のペースは鈍化したとされています。前回に比べ評価はやや後退しましたが、家計支出の土台となる労働市場については、さらなる改善を見せた前向きな判断を下しています。
- 一方、インフレは、前回と同様、原油価格の値下がりなどもあり、目標値である+2%を下回った状態が続いているとしました。



(注1) FRBは米連邦準備制度理事会。
(注2) FFレートは2007年1月5日～2016年4月27日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注3) 物価上昇率は2007年1月～2016年2月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 リスク評価は改善

世界経済・金融市場の動向を注視

- 経済の見通しについては、引き続き「緩やかな拡大を持続」としました。
- 前回の声明文では、経済見通しに対するリスクとして「世界経済および金融市場の混乱」が挙げられていましたが、今回はこれを削除し、代わって「インフレ指標および世界経済・金融の動向を引き続き注意深く観察」していくとしました。

FOMC参加者の経済見通し

項目	開催時期	2016年	2017年
GDP成長率	2016年3月	2.2	2.1
(%)	2015年12月	2.4	2.2
失業率	2016年3月	4.7	4.6
(%)	2015年12月	4.7	4.7
物価上昇率	2016年3月	1.6	1.8
(%)	2015年12月	1.6	1.9

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。開催時期はFOMCの開催月。
(出所) 米連邦準備制度理事会（FRB）の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 緩やかな利上げ見通し

- 今回の声明文は、前回に比べ景気判断でやや後退、リスク判断で前進、総合すると前回と同様にハト派色の濃い内容だったと評価できます。声明文公表後、米国株は上昇、国債利回りは低下しました。
- 今後も低インフレ下での緩やかな景気拡大が続く見通しであり、利上げのペースは緩慢なものになると予想されます。株式、債券の双方にとって良好な環境が、しばらく続く見込まれます。

ここもチェック! 2016年 4月 7日 米国のISM景況感指数（2016年3月） 2016年 4月 4日 米国の雇用統計（2016年3月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。